

【長野県】 1人1台端末の利活用に係る計画

2024年9月

項目	内容
<p>①1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿</p>	<p>「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童生徒一人ひとりの学習進度に合わせた指導体制の構築や授業改善を推進するとともに、多様な他者との対話・協働により、自らの問いの解決に向けて追及する探究の学びを充実する。</p> <p>特別支援教育においては、「自立と社会参加に向け、一人ひとりの力を最大限に伸ばすICT教育の推進」を目指し、個別の指導計画にICT活用を位置付け、ICTを活用した一人ひとりに応じた多様な学びの実現を目指す。障がいに応じた様々な支援ツール・手法を活用し、「わかった」、「できた」を実感できる個のニーズに添った授業づくり等を進めたり、学校種や年齢、障がいの特性等に応じた情報活用力を身に付け、思考・表現・発信したりする学習を進める。</p>
<p>②GIGA第1期の総括</p>	<p>令和5年度末の調査の結果、「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用することができる」と回答した教職員の割合は77%であり、日常の授業においてICTを活用することが定着してきている。GIGA第1期での1人1台端末及び高速ネットワークの整備に伴い、個のニーズにあわせて、自分のペース、安心できる仲間や場所で学習したりすることが可能となった。</p> <p>ICTを活用した学習が広がりつつある一方で、クラウドを活用した児童生徒同士の協働的な学習や学校と家庭での連続的な学習に関する活用は一部にとどまっている。今後は、職員への研修の機会を増やすとともに、各校の好事例を収集して紹介していくことにより課題解決を図る。</p>
<p>③1人1台端末の利活用方策</p>	<p>端末の整備・更新により、児童生徒の1人1台端末環境を引き続き維持し、「自立と社会参加に向け、一人ひとりの力を最大限に伸ばすICT教育の推進」を目指す。GIGA第1期の取組に加え、今後は以下の取組も順次進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドの活用による「児童生徒同士の協働的な学習」、「学校と家庭での連続的な学習」の実践については、一人ひとりの興味関心や実態に応じた活用方法について研究し、好事例を研究会等の場で各学校へ伝達していく。 ・特別支援教育においては、文部科学省が示している特別支援教育におけるICT活用の視点「教科指導の効果を高める、情報活用能力の育成を図る」「障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服する」の2つの視点で各校の実践を整理、収集、研究をし、好事例を研修会等の場で各学校へ伝達していく。